

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和4年8月分）

【製造業】

○製造業は、6月の鉱工業生産指数は前月比6.4%上昇となった。ヒアリングでは、価格転嫁はゆるやかに進んでいるものの、光熱費等あらゆるものが値上がりしており、全てを価格転嫁できるわけではないとの声や、受注は横ばいだが、部品の入荷遅延が続いており、代替品もなく対応に苦慮しているとの声も聞かれた。

【地場産業】

○地場産業は、6月の鉱工業生産指数は、木材・木製品、窯業・土石、食料品、繊維工業で上昇した。ヒアリングでは、円安の影響により輸出部門の収益は増加しているものの、原材料費高騰の影響により経費も増加しており、今後もこのような状況が続けば収益が悪化するとの声や、原材料の輸入停滞により、各工程で納期が遅れるなどの機会損失がみられるとの声も聞かれた。

【設備投資】

○設備投資は、7月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比で5.5%増加した。ヒアリングでは、脱炭素実現に貢献するボイラー設備を導入したとの声や、増産及び作業のIT化を目的として新工場の整備を完了したとの声が聞かれた一方で、設備の買い替えを検討しているが、資材が高騰しているため、適切な購入時期の判断に困っているとの声も聞かれた。

【個人消費】

○個人消費は、7月の販売額は、ドラッグストア以外で減少し、全体で▲3.2%となった。ヒアリングでは、生鮮食品スーパーの売上は堅調であるものの、飲食店やアパレル店舗は大幅に減収と、カテゴリ毎に状況が分かれているとの声が聞かれた。

【観光】

○観光は、7月の観光客数、宿泊者数はコロナ前の令和元年同月比▲16.9、▲26.3%となった。宿泊施設からのヒアリングでは、8月は県民割のおかげで予約数が増えたとの声が聞かれた一方で、原材料価格やエネルギーコストの高騰で、経営が圧迫されているとの声も聞かれた。

【資金繰り】

○企業の資金繰りは、7月の制度融資実績は、件数、金額とも15ヶ月連続で前年同月比で減少した。金融機関からは、価格転嫁は徐々にできていると聞くが、原材料の上昇率が高く、ピッチも早いと転嫁が追い付いていないという声もあり、動向を注視しているとの声も聞かれた。

【雇用】

○雇用面は、7月の有効求人倍率は1.68倍と11ヶ月連続で1.50倍を超えた。ヒアリングでは、人手不足を感じており、外注や派遣社員を増やすことで対応しているとの声や、大手自動車メーカーの減産の影響により、現在の人員で対応できているが、いつ受注が正常化するか不明確であるため、人員の確保はしているとの声が聞かれた。

【景気動向】

6月の景気動向指数（一致指数）は前月比2.0ポイント上昇、7月の中小企業の景況感と同4ポイント上昇となった。